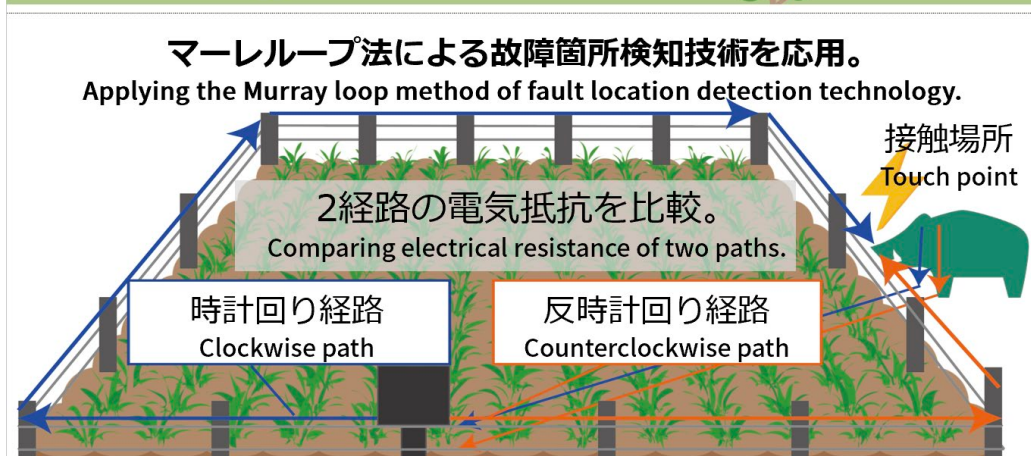
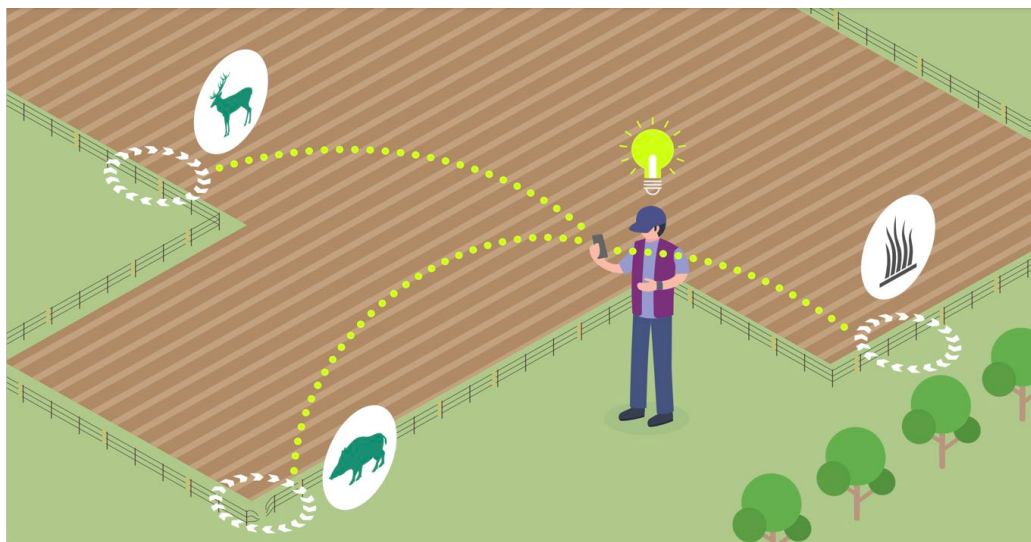


動物との接触検知可能な電気柵

鹿、猪、熊などが触れた場所が分かる電気柵で
農業の現場をより安全かつ便利にします

#顧客体験価値向上 #業務効率化 #地方創生



///技術課題

既存の電気柵は動物が接触した場所や、草木との接触でショートしている場所がわからず、故障時対応に大きな負担がかかります。

///研究目標

動物や草木との接触箇所がわかる電気柵で、農業従事者の安全の確保と電気柵メンテナンス負担の軽減を両立します。

---要素技術

- 地下電線の断線検知に使うマーレーループ法をタッチセンサーに活用した、ドコモ独自のラージスケールなタッチセンサー
- 既存の電気柵のワイヤーをそのままタッチセンサーにすることを実現する回路設計

---適用ビジネス

農地：動物や草木との接触検知による電気柵メンテナンス負担の軽減や生態系の把握
牧場：家畜との接触検知による脱出が予測される場所の把握
警備業界：不審者侵入時のワイヤーへのタッチ検出による防犯対策
技術確立予定時期：2025/2Q

---市中技術差異点

- 長距離設置された電気柵上のタッチの検出が、数mの誤差範囲で可能
- 単一の機材を市中の電気柵に取り付けるだけでタッチセンサー化できるため、多数のカメラやセンサーを導入する方法と比べて、コストとスケーラビリティの観点で優位